

特集・自己教育の源流

「教育原論」または「自己教育の思想」 野本三吉 5

江渡狄嶺の教育思想

4人の子の就学を拒否した江渡狄嶺の家庭教育 大西伍一 14
 私の受けた家庭教育 江渡不二 20
 愛する子供達よ 江渡狄嶺 24

自由大学論 土田杏村 30

現場からの発言

新しき学校への模索 松村光子 44
 自己教育への出発 渡辺洋子 57
 社会教育の現場から 福岡博 58
 教育維新による世界連邦 市川英作 60

書評・集団主義教育の問題点——篠原睦治『キブツのこどもたち』高田武彦 40

キブツは日本の進路を示唆す 手塚信吉 33

1972年を迎えて 宮部一郎 2
 年頭所感 手塚信吉 3

現代ヘブライ語講座(最終回) 西本とみ 42

通信・アメリカの宗教共同体/備北共同体に向けて F・ビレフェルト 61
 尾関弘 62

告知板 62

協会日誌 63

制作部メモ 64

制作部/野本三吉(特集制作)・上野允士・岸田恭子・百瀬直彦・岸田哲

生きがい

●感動の人生記録

手塚信吉著

A5判上製・7000円
 (送料1100円)

平凡人の体験記録にすぎないが、永い七十余年を文字ど
 うり精一パイ生き抜いてきた足跡を、日誌に基づいてま
 とめたものが、この『生きがい』である。時代は大きく
 変わったが人間の本質に変わりはないので、境遇を同じ
 くする青年諸君には今日でも参考になるであろうと確信
 して、誇張も虚飾もなく正直に書いてみた。……人類は
 共同体なり、協同協力の中にのみ個人の安定も世界の平
 和もある。……(序文より)

日本の共同体

●一燈園/心境農産/前森山集団
 農場/ヤマギシズム北試/東山産業
 A5判・二〇〇円(送料三五円)

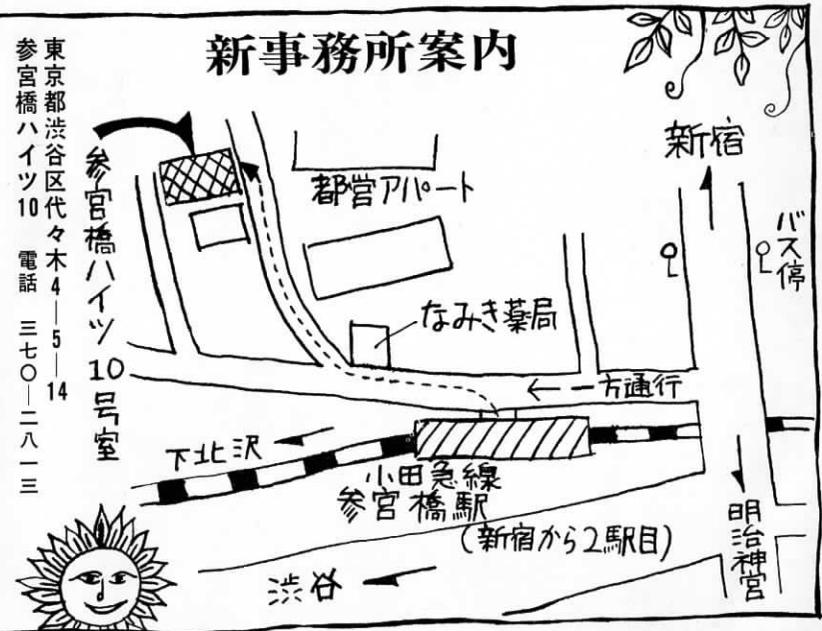
日本協同体協会

東京都渋谷区代々木4-5-14
 振替 東京 24403

新事務所案内

日本協同体協会

東京都渋谷区代々木4-5-14
 参宮橋ハイツ10 電話 三七〇二八二三



一九七二年を迎えて

宮部 一郎
(日本協同体協会理事)

読者の皆様、明けましてお芽出度う存じます。旧年中と同様に、或いはそれ以上に新たな決意を以って協同体運動に挺身致したいと思っております。ご協力をお願い致します。

私は昨年の十月下旬にイスラエル政府並にアジア・アフリカ協同組合研究所の懇切なる御協力によって、約八日間をイスラエル国内を視察する機会に恵まれました。首都エルサレムは勿論のこと、南はアカバ湾のエイラツト港の建設や、北はゴラン高原地帯の開発などを視察し、農村地域では幾つかの集団農場やキブツを訪問することが出来ました。また政府や民間の要人も接して話をきく機会に恵まれ勉強になりました。しかしながら、第二次大戦後に何十カ国が独立しましたが、その一つとしてのイスラエルが奇跡的に襲いかかる困難を排除し乍ら急速な発展を遂げつつある秘訣を明かにすることは、短時日の旅行のよくするところではありません。それにもかかわらず私はユダヤ民族が人類の理想に燃

え、信念に満ちて嘗々として建国に邁進する姿に接し多くの感銘を受け、今後わが国及び日本人が国際社会に伍して進むために反省すべき教訓を得た次第であります。

一九四八年五月十四日にイスラエルはテルアヴィブ市の博物館ホールにおいて独立宣言を発しましたが、その長い宣言文の一節に「イスラエル国は、イスラエルの予言者が夢想したような、自由、正義、平和に基礎をおくものとする。全市民の社会的、政治的権利は信教、人種、性別による差別はなく全く平等とする。云々」とあります。御承知の通り、イスラエル国は周囲四カ国のアラブ民族国家から今なお敵意を以って包囲されて居ります。しかもイスラエル国内には、多くのアラブ民族やドルーズ族を抱え込んで居りますが、それ等の地域社会に対してもユダヤ人社会と差別することなく全く同様の行政と福祉施設を施しております。また、イスラエル人の社会観、人生観が自己の福利を先にせず、社会

全体の福祉を先にし、しかもそれを自発的な協同の力によって達成しようと努力して居るかにうかがわれることであります。それは官庁においても民間においても無数の協同組織が縦横に発達していることにもうかがわれます。協同組合運動の標語である「一人は万人のために、万人は一人のために」を具現したものと云ってもよいでしょうか。

昨年の夏、アメリカのニクソン大統領によって発表された新経済政策は、国際経済に大きな波紋を投げましたが、わが国ではドルショックとして朝野を挙げての狼狽振りでした。また中華人民共和国が国連の議席を獲得し、台湾政府がその位置を去らなければならなくなったことは、わが国の将来の進路にとつて相当な転換を余儀なくせられるでありましよう。かかる時局に直面して、私共日本人はすべからず利己的かつ唯物的な人生観を一蹴して、社会公共の福祉を優先する倫理観を速やかに確立すべきではないかと思ひます。幸いにしてわが同志諸君はここ数年各各地に理想社会の建設をめざして、協同体運動を盛り上げて居るのであります。私もまたこの戦線の一兵卒として決意を新たに關いたいと思ひ、重ねて希うものであります。昭和四十七年元旦



顧みれば一九六二年、はじめてイスラエルを訪れてキブツ協同体を知り、日本では招かざる客であったその普及に専念してから十年になる。月刊キブツの発行も第十巻第一号が本誌である。

そして、協力的な運動、売れない雑誌、手弁当の東奔西走、北海道から九州まで、いや韓国までも進出して、半ば押売りの講演会や座談会何百回に及び、漸く五年後に有力者多数の参加があり、社団法人日本協同体協会が誕生したのが、一九六七年十月であった。その間にも「月刊キブツ」の会員を主体とする青年男女を、期間一カ年のキブツ研修生として毎年イスラエルに派遣すること既に八回、その人員数二百三十八名に達しており、本年四月三日出発予定の第九回キブツ研修生も、多数の希望者の中から選考の上で、合格者九十八名を決定した。かくて、年と共にキブツの名は全国に普及し、研修を希望する青年男女も激増の有様

であり、まことに今昔の感に耐えないものがある。



民主主義化が進むに従って、協同体思想は世界的となっており、ニクソン米大統領もその就任演説の冒頭で、「世界の協同

年頭所感

手塚信吉

(日本協同体協会常務理事)

体の皆さん……対立の時代はおわり協同の時代に入った」、そんな言辭があるように、アメリカでさえ、そんな方向に進んでおり、米中接近工作もその一つのあらわれである。

昨年の本誌の「元旦の辞」で、私は、二一世紀は中華人民共和国の世紀となるであ

らうと述べてあるが、その第一段階としての中国の国連参加も、日米必死の妨害工作をも斥けて絶対多数の支持票を得て決定した。世界人口の四分の一を占める八億中国の比重は重い。今日以後の世界の動向を左右すること多大のものがあろう。

革命成つて新時代的な協同体国家を形成し、毛沢東主席から一農民労働者まで、一切平等、綿服一色、皆労働体制、一人の失業者も飢民なく、一糸乱れぬ秩序の確立、正に世界史上空前の倫理国家、尚幾曲折はあるにしても大勢の変化はないとみる。これが隣国に及ぼし世界に波及すること日を見るより明らかであろう。

一衣帯水の彼岸にある日本が、個人主義個別対立、不労所得中心の不平等社会、旧態資本主義体制の温存が許されるはずがない。日本が新興中国に対処するためにも、資本主義文化の中に生まれた協同体社会、キブツに学ぶことが最も賢明であろうと確信する。

昭和四十七年元旦